

## ラムサール条約

ラムサール条約は、1971年イランのラムサールという町で採択された「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」の通称です。

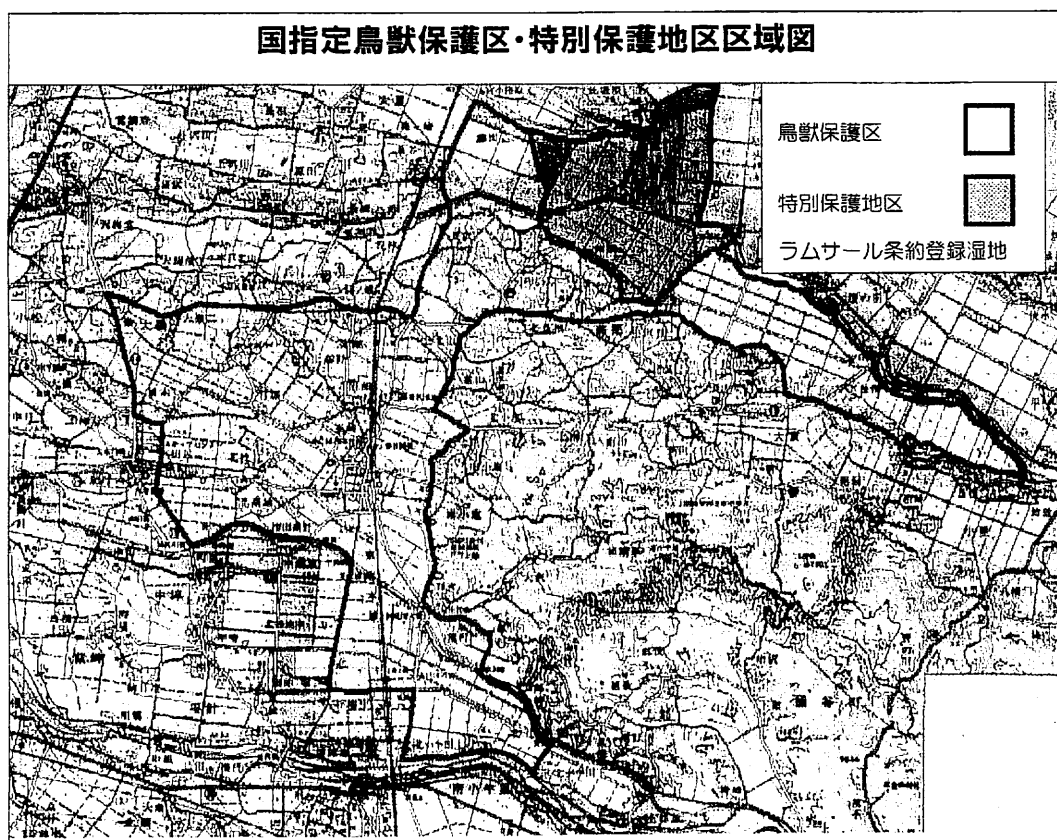
湿地に生息・生育する動植物，特に国境を越えて移動する水鳥を中心に国際的に保護・保全し，それらの生息地である湿地の「賢明な利用」を促進することを主な目標としている条約です。

日本では釧路湿原を登録湿地として，1980年に条約に加盟し，順次登録湿地を増やしてきました。

「蕪栗沼・周辺水田」については，平成17年11月8日からアフリカのウガンダ共和国で開催された「ラムサール条約第9回締約国会議」においてラムサール条約湿地に登録され，現地で認定証が交付されました。

## ラムサール条約湿地登録までの歩み

ラムサール条約への登録にあたっては，定められた国際基準を満たすほか，湿地に自然保護区を設けることが定められています。日本においてこの自然保護区に該当するものが鳥獣保護区であるため，登録のためにはその場所を鳥獣保護区として国が指定する必要があります。鳥獣保護区には設定区分が設けられており，重要度に応じて鳥獣保護区，特別保護地区，特別保護指定区域の3つに分類されます。国内ではこれまでラムサール条約に登録された湿地のほとんどが特別保護地区以上の指定を受けています。「蕪栗沼・周辺水田」も所定の手続きを経て，平成17年9月1日に特別保護地区として指定されました。



(登録までの経過)

平成16年

- 9月 2日 環境省で開催された第2回ラムサール条約湿地検討会において、蕪栗沼を含む54の湿地がラムサール条約の登録候補指定地と選定される。
- 10月27日 環境省主催「鳥獣保護区設定に関する説明会」の開催

平成17年

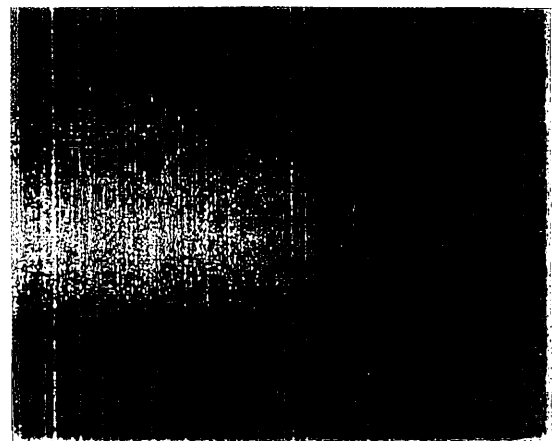
- 6月10日 「国指定蕪栗沼・周辺水田鳥獣保護区及び同蕪栗沼特別保護地区の指定」に係る公聴会の開催
- 6月27日 国指定鳥獣保護区の指定等について、中央環境審議会野生生物部会に諮問
- 9月 1日 官報により「国指定蕪栗沼・周辺水田鳥獣保護区及び同蕪栗沼特別保護地区の指定」について告示
- 9月27日 ラムサール条約湿地登録について、中央環境審議会野生生物部会に報告
- 10月21日 官報によりラムサール条約に規定する湿地として登録されることについて告示
- 11月8日～15日 ラムサール条約第9回締約国会議がアフリカのウガンダ共和国の首都カンパラで開催。その中で国際的に重要な湿地に係る登録簿に掲載され（8日）、認定証が授与される（10日）

渡り鳥と農業の共生を目指す

ラムサール条約の登録湿地となった蕪栗沼と隣接した水田では、渡り鳥のねぐらの確保を行いながら、冬期湛水水田などの環境に配慮した米づくりが行われています。

これらの取り組みは、消費者からの評価も高く、農業と自然保護の両立を目指す、世界のモデルになり得る画期的な試みとして、各方面から脚光を浴びています。

田尻町の目指している環境保全と経済活動の両立は、これからの農村のあり方のひとつの指針になるのではないのでしょうか。



マガンの飛び立ちの風景（蕪栗沼）

## 蕪栗沼

【湿地の概要】～位置・気候・生息生育動植物など

蕪栗沼は、宮城県仙台市の北北東、直線距離にして約46キロメートルのところにあります。約150haの面積をもつ蕪栗沼は、南北の丘陵に挟まれた低地性湿地です。かつては海でしたが、周囲の丘陵地にある縄文時代の貝塚から、海水産のカキやハマグリ、汽水のヤマトシジミ、淡水のタニシ、イシガイが出土しており、同時代の早期から後期にかけて徐々に淡水化していったことが分かっています。

また、海拔3メートルほどの蕪栗沼は洪水が起こりやすい場所のため広大な湿地が維持されてきました。その洪水防止等のために、江戸時代から北上川の河川改修が行われた結果、支流が流れ込む沼の水位が下がり、干拓が可能になり、堤防を築き、沼は水田へと姿を変えていきました。

沼の一部は水田へと姿を変えましたが、依然として、しばしば洪水が起き、下流にある石巻市を襲いました。そのため石巻市や周辺の町を守るために蕪栗沼と周辺の水田は、溢れた水を一時的に蓄える遊水池として整備されました。その際に約50haの水田（白鳥（しらとり）地区）が湿地に戻され、現在の約150haの面積になりました。

現在までに蕪栗沼では、219種の鳥類、33種の魚類、10種の貝類、絶滅の恐れのある植物19種が確認されています。

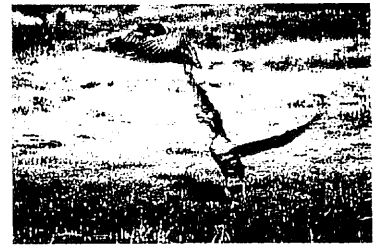
周囲の水田と関わりが深い生き物が多く生息しており、代表的な生き物としては天然記念物のマガンやオオヒシクイなど大型の水鳥やオジロワシがねぐらや採食の場として利用しています。また海からの高低差が少ないため、マハゼやボラなどの魚も観られます。

植物ではヨシやマコモ群落が多くを占めており、タコノアシやミズアオイなど汜濫源や湿地に生える植物も観られます。

この沼を含む周辺水田が、平成17年11月8日にアフリカのウガンダで開催されたラムサール条約第9回締約国会議で「蕪栗沼・周辺水田」としてラムサール条約に登録されました。

蕪栗沼の代表的な動植物

マガン [分類] カモ目カモ科



全長 65～75cm で翼を広げると130～155cm にもなる鳥。体全体が茶褐色でお腹の黒すじとピンクのくちばしのつけ根にある白い部分が特徴である。大きな鋭い声で“クワワワン”と鳴く。冬鳥として日本に渡来し、主に宮城県北部で約9万羽が越冬する。狩猟と生息地の乱開発により生息数が減り、昭和46年に国の天然記念物に指定される。蕪栗沼には、稲刈りが始まる9月の下旬ごろから飛来し、多いときは約5万羽にもなる。日本に飛来するマガンの50%は蕪栗沼に飛来する。蕪栗沼には、夜間滞在し、昼間は周辺水田にえさを求め出沒する。

ミズアオイ [分類]ミズアオイ科ミズアオイ属



花は青紫色で美しく、9～10月にかけて咲く。タコノアシと同様に水辺からヨシやヤナギ群落へ植物が遷移していく途中に発芽する植物。ヨシ、ヤナギが密に生え過ぎていても発芽できない。地面に浅く水が張りグチュグチュする程度になると発芽する。

## 保全・清掃の活動内容など

蕪栗沼を含む遊水池の管理、保全については、関係機関やNPO、地域住民で構成する蕪栗沼環境管理会の中で協議を行い進められています。

現在、県の事業としての生物モニタリング調査、清掃作業が行われているのに加え、観光協会や地域住民による清掃活動も行われています。

「白鳥（しらとり）地区」では水路の修復を行い、水の循環を良くすることで、水質の改善を図り、後述する環境教育ゾーンではニホンアカガエルや水生昆虫の繁殖の場を創出しています。

また、蕪栗沼の南に隣接する地域では、冬季に飛来する渡り鳥の集中による沼への負荷を減らすためにマガンの「ねぐら」の拡大を目的とした冬のたんぼに水を張る「ふゆ・みず・たんぼ」を実践し、農薬、化学肥料不使用栽培を行い、ガン・ハクチョウ類の水飲み場、採食・休息の場の提供を地元農業者が中心となって行っています。

蕪栗沼を中心とした田尻地区は、平成16年に環境省より「国立公園等エコツーリズム推進モデル事業」のモデル地区の一つに選定されました。「エコツーリズム」は、自然・歴史・文化を体験しながら、地域への理解と関心を深め、自然環境の保全に貢献する旅のかたちです。そのエコツーリズムの中で蕪栗沼では、マガン観察のルールなどを作成、沼の動植物や付近住民への負荷を軽減するためのルール普及を図っています。

### 【湿地の利用状況】～地域住民の利用、教育活動の利用など

蕪栗沼の東に位置する白鳥（しらとり）地区南側は「水辺の楽校」プロジェクトの中で、環境教育ゾーンとして位置づけられており、田尻町内の小中学校や蕪栗沼周辺の栗原市、登米市の小学校も環境教育の現場として利用しています。また、学校田などで、たんぼの生き物観察も実施されており、沼とのつながりについても勉強しています。

沼は環境教育として通年利用されていますが、主に6月、7月の水生動物の観察、10月、11月、12月のガンなど水鳥の観察の利用が多くなっています。

また、地域の方が昔より魚穫りや釣り場として利用していますし、数年前までは梁を使った漁も行われていました。

秋には、ガイド付きの雁の観察会がグリーン・ツーリズム、エコツーリズムなどの事業の中で実施されています。

## オオヒシクイ

【分類】カモ目カモ科



全長 75～90cm の大きな身体と太く巨大なくちばしが特徴である。マガンよりも首が長く体も大きい。黒いくちばしの先にオレンジ色の部分があり、“ガハーン”と鳴く。蕪栗沼には11月ごろに最大で約1,000羽が飛来し、マコモの地下茎を食べている姿が見られる。オオヒシクイはマガンと違い1日中蕪栗沼で過ごす。

## タコノアシ [分類]タコノアシ科タコノアシ属



タコノアシは名前のとおり、花がタコの足に似ている。タコが逆さになったときの足の広がりや想像するとそっくり。また、茎そのものも赤く、秋になると花や葉も赤くなる。ミスアオイと同様に環境省が絶滅の恐れのある植物に挙げ、蕪栗沼の一部や隣の白鳥地区水田跡地に生息する。

その他、生協等の消費者と生産者の交流の中で、湿地の生き物観察会が実施されています。

#### 【その他】

蕪栗沼では、現在エコツーリズムやグリーン・ツーリズムなどの体験メニューの充実化を進めています。初めての方はなかなかたどり着けない、「蕪栗沼」へのガイド付き観察会、そば打ち体験や、田舎体験メニューなど、地域の自然や歴史、文化の魅力を来訪者に体験して頂くシステム作りを行っています。また、1999年5月14日に「東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク」に登録されています。

#### ～渡り鳥の観察をより楽しむために～

- 観察の際は、鳥を驚かさないうち、ゆっくり静かに行動し、小さな声で会話しましょう。車のライトやカメラのフラッシュにも気をつけてください。また、堤防の下には降りないでください。
- 渡り鳥の行動範囲は、町全体に分散しており、交通手段は車かタクシーしかありません。渡り鳥の観察を十分堪能していただくためにもガイドツアーをご利用ください。
- 餌付けは生態系のバランスを崩したり、水質の悪化につながります。絶対にエサを与えないでください。また、生き物は持ち帰らないでください。
- 観察施設、トイレ、電話等はありません。
- 付近の住民の迷惑や農作業の妨げとなる行為はしないでください。
- マガンの飛び立ちやねぐら入りは、日の出や日の入りの時刻と同じく季節によって変わります。また、日中は田んぼにいて沼にはほとんどいませんので、ご注意ください。

#### ニホンアカガエル

[分類]無尾目アカガエル科



オス 48 mm、メス 55 mmの大きさと  
“キョキョキョ”と声を上げて鳴く。繁殖は3月に始まり、この寒い時期に繁殖を始めるほかのカエルは見当たらない。蕪栗沼全域において、あぜ道を歩いていて飛び出してくるのはニホンアカガエルなどの子どもたちです。

#### イシガイ [分類]イシガイ目イシガイ科



大きさは5～6cm程度の二枚貝。貝殻は固く黒褐色で水深の浅い場所に多く生息している。蕪栗沼のゼニタナゴは、イシガイなどに産卵し、魚とともに蕪栗沼で生きる。